

経営比較分析表（令和2年度決算）

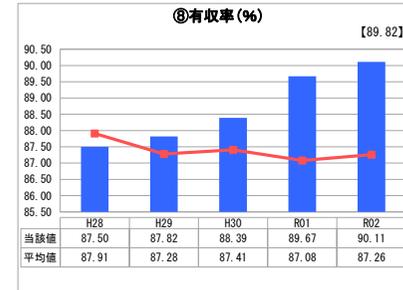
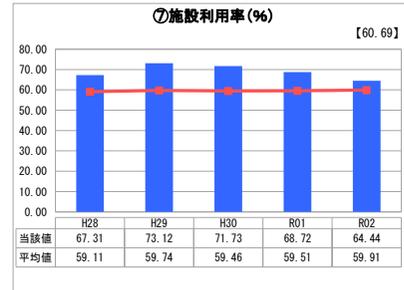
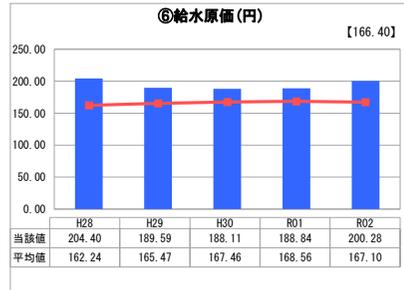
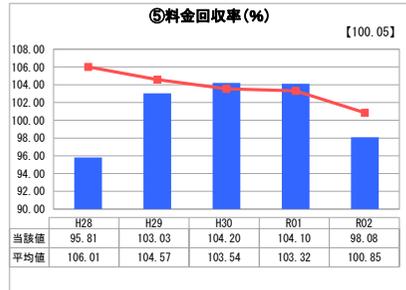
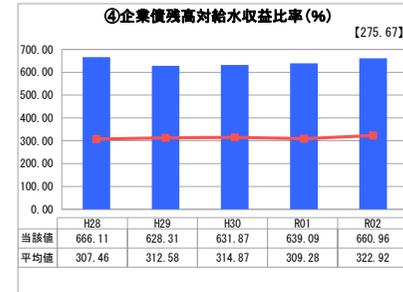
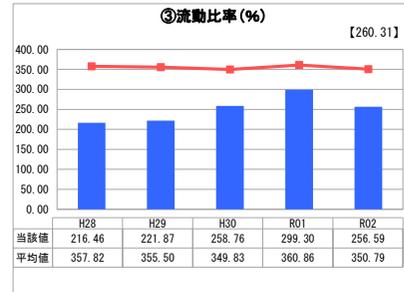
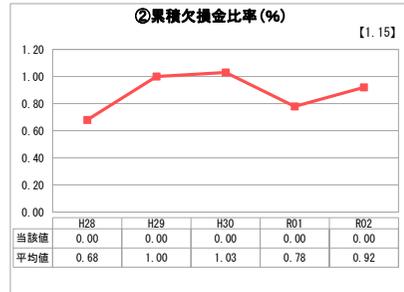
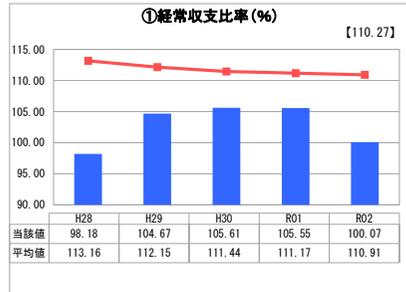
石川県 加賀市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	46.46	99.99	3,251	

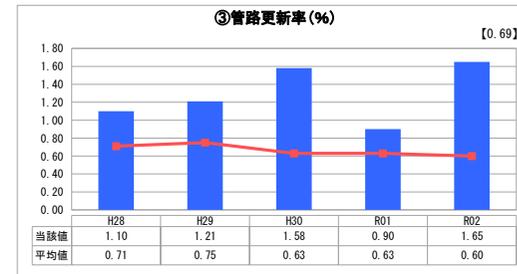
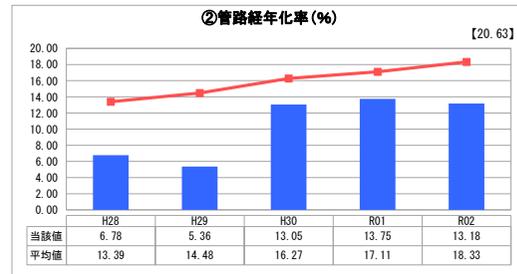
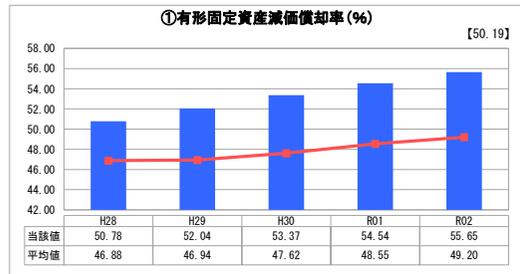
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
65,307	305.87	213.51
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
64,900	55.83	1,162.46

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和2年度は、コロナ禍により家庭用水需要は微増したものの、旅館や飲食業等の都市活動用需要が減少したことにより赤字となった。経常収支比率は100%を超えているが、人口の減少、コロナ禍による減収により料金回収率や流動比率等の指標は悪化しており、企業債残高も多いことから、企業債の元金及び利息の償還が経営を圧迫していくと考えられる。施設利用率や有収率については、類似団体平均値に比べ良い数値となっているが、将来の給水量の減少を踏まえ、料金収入の確保に向けた検討が必要である。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は年々増加し、管路経年化率も高止まりしており、施設及び管路の老朽化が進んでいる。今後、更新時期を迎える管路や施設が増加することから、優先順位を考慮し、ダウンサイジングも含め計画的な施設等の更新の標準化を実施していく。

全体総括

人口減少による給水収益の減少、施設や管路の老朽化による更新費用の増大が大きな課題となっていることに加え、コロナ禍の影響により経営は悪化したが、安全で良質な水を供給し続けるため、収支バランスの改善に向けて、今後も適切な投資と収益の確保に努め、料金改定の検討、施設の規模縮小や適正な施設への転換を図っていきたい。